

Higashikawa

Hokkaido, a town of wooden furniture guide



北海道 東川町 木工家具のまちガイド



日本5大家具のひとつ、旭川家具を作る家具メーカーや

職人の3割は、東川町に活動拠点を構えています。

町域の7割、約17,000haが森林に覆われ、北海道最高峰の旭岳の天然水が

全家庭で飲めるという豊かな自然環境が、「地場のものを使う」、

「ほんものに触れる」文化や、「ものづくりを応援する」気運を醸成してきました。

ライフスタイルが変わる過渡期であるいま、

生活に寄り添う木工家具を生み出すまちとして、

良いものを長く使うという視点から持続可能な社会に寄与していきたい。

そんな未来への想いやいままでの歩みをご紹介します。



Concept	1	子どもたちに贈るほんもの	——	4
	2	暮らしの中で寄り添う家具	——	8
	3	家具文化を共に伝えていく	——	12
	4	デザイン文化を未来へ育む	——	16

子どもたちに贈るほんもの



東川町で生まれた子どもたちには、生まれた瞬間から、木のぬくもりに触れ、豊かに育ってほしい。そんな思いでまちが取り組んでいる試みがあります。良いものを見る目を養い、自然やものを大切にする習慣は、身の回りに当たり前のようにある環境から生まれていく。東川町の子どもたちの一生の宝物となるように願い、成長にあわせて手渡す、贈り物の数々です。



生後100日のフォトフレーム

まちの未来を担う子どもの誕生をお祝いして、生後百日の記念写真を無料で撮影。「写真の町オリジナル額」に入れてプレゼントしています。



君の椅子

「君の居場所はここにあるからね」という願いのもと、生後100日頃の子どもに町内で手作りされた椅子を贈るプロジェクト。2006年に東川町から始まりました。



お祝いの乳歯ケース

生後1年目のお祝いとして子どもたちに贈られる名前入りの乳歯ケースは、職人が名前の印象に合わせて木目を選び、ひとつひとつ手作りで制作。



学びの椅子

小学校では町内で作られた机と椅子で学びます。中学入学時に渡され3年間を共にする名前入りの椅子は、授業で手入れの方法を習い、卒業式でプレゼント。

Voice 「君の椅子」プロジェクト／若松家インタビュー

ものの価値を知って育つことがそれぞれの生き方につながる

「生まれてくれてありがとう」「君の居場所はここにあるからね」そんな思いが込められた「君の椅子」プロジェクト。長男の誕生時に、旭川から東川町に引っ越してきた若松美帆子さんのお子さん3人は、それぞれの「君の椅子」を持っています。「生まれてすぐはもちろん座れないのですが、つかまり立ちの時から、ずっと一緒。ただ座るだけではなく、遊び道具としても使っています。だから、子どもたちにとって君の椅子は、座るもの以上に『暮らしのなか

にあるもの』『いちばん身近な家具』。文字が読めるようになって『わたしの名前が書いてある！』と喜んでいる姿を見ると、ちゃんと手のかかった自分のものだという認識はあると思うんですね。大人になった時、こんなことをしてくれる大人たちがいたんだ、とか、自分たちは良いものに囲まれて育ったんだ、とか、この町に生まれて住んだことそれ自体が恵まれた環境だったんだ、とか、きっと人生のいろいろなタイミングで感じてくれると思います」



上) 夫の若松忍さんと美帆子さん。
下) 長男の左龍くん、次男の右禅くん、長女の結愛ちゃん。それぞれの椅子と一緒に。

デザイナーと職人が共に生み出す



君の椅子2022モデル 担当 パウ工房

大門厳さん（左）

1953年北海道秩父別町生まれ。1969年道立旭川職業訓練校木工科卒業。1973年ドイツ・ミュンヘンでの技能五輪国際大会3位。1988年アートクラフト・パウ工房設立。全国各地で個展を開催。2004年にはドイツ・MARTA美術館に招待出品するなど受賞歴多数。

大門和真さん（右）

1979年旭川市生まれ。2005年にアートクラフト・パウ工房に入社。2014年国際家具デザインコンペティション旭川にてメープルリーフ賞受賞。全国各地で展示を行っている。

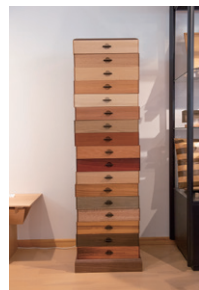


2022年 「君に寄り添う友達に」

デザイナー：坂本茂
(sim design)
製作者：大門厳、大門和真
(パウ工房)、桑原義彦(匠工芸)

家具デザイナーや建築家、美術家など毎年違うデザイン担当者と家具職人がタッグを組み作られる椅子をその年に生まれた「新しい生命」に贈る「君の椅子プロジェクト」。2006年に東川町から始まり、パウ工房はいままで6回製作を担当しました。「デザイナーの方とのやり取りはいつも刺激になります。2006年の椅子は、中村好文さんのアイデアで4本の足の素材をすべて違う道産材の木にしました。2009年の小泉誠さんがデザインした椅子は、子どもが座るだけでなく、お母さんの授乳時やお絵かきのテーブルなどさまざまな場面での使用を考えて四角い平らな座面に。シンプルで無駄がないところが気に入っています」

デザイナーのこだわりを踏まえつつ、職人が製作する上での課題との調整や子どもが安全に使うための強度試験なども加えながら、約半年間かけて大切に作られる君の椅子は、毎年50脚ほどが東川町で生まれた子どもたちに届けられています。



左) 窓が多く解放感のある工房。併設のショールームでは優れたアイデアと高い技術力の作品が購入できる。中) 樹種特有の肌合い・色などをそのまま活かし、20種類の違う木材が使われた唯一無二のキャビネット。触れると揺れそうなデザインもユニーク(厳さん作)。右) 2014年IFDA国際家具デザインコンペティションでメープルリーフ賞を受賞した和真さん作「ウィンドスツール」。

バリエーション豊かな歴代「君の椅子」



2006年 「2006年、生まれたきみに」

デザイナー：中村好文（建築家）
製作者：大門厳（パウ工房）
材質：イタヤカエデ、カバ、クルミ、ナラ、タモ



2009年 「いつでも一緒に」

デザイナー：小泉誠
製作者：大門厳、大門和真（パウ工房）
材質：エゾヤマザクラ



2011年 「椅子のかっこうをした 奇妙で自由な時計」

デザイナー：大竹伸朗（美術家）
製作者：宮地鎮雄（工房宮地）
材質：クルミ



2013年 「歴史の置き場所」

デザイナー：笠原嘉人
(インテリアプロダクトデザイナー)
製作者：向坊明（むう工房）、
桑原義彦（匠工芸）
材質：ミズナラ、ニレ



2015年 「汗や涙が染みついた 世界でひとつだけの椅子に」

デザイナー：中村好文（建築家）
製作者：大門和真（パウ工房）、
桑原義彦（匠工芸）
材質：北海道産ミズナラ



2017年 「円と縁を結ぶ」

デザイナー：中村昇（家具デザイナー）
製作者：服部勇二（家具工房木魂）、
桑原義彦（匠工芸）
材質：北海道産ミズナラ

Column 希望の「君の椅子」

「3.11」に生まれた君。たくましく未来へ — 希望の「君の椅子」とは —

東日本大震災が起きた2011年3月11日。「君の椅子プロジェクト」代表の磯田憲一さんはあの壮絶な日に産声を上げていた「新しい生命」に「希望の『君の椅子』」を贈ることを思い立ちました。そこで「君の椅子プロジェクト」が中心となって

東川町、剣淵町、愛別町の町長に相談。被害の大きかった福島県、宮城県、岩手県で生まれた子ども98名に椅子を手渡すことができました。子どもたちのたくましく健やかな成長が、東北の、そして日本の希望だと信じて生まれた椅子です。



デザイナー：中尾紀行
(東海大学国際文化学部教授)
製作者：桑原義彦（匠工芸）
材質：ナラ

暮らしの中で寄り添う家具



東川町では町内の木工家具事業者が手掛けた椅子やテーブルなどを学校や公共の施設などに積極的に設置して、誰もが使えるようにしています。

町内の飲食店やショップなども地域で生まれた木工家具を多く取り入れているので、自然と身近なものに。

また、まちの住環境を豊かにする試みに賛同する方を補助する制度もあり、町民に奨励しています。



木工家具のまちの象徴

1986年の木彫看板設置事業を発端に、いままメインストリートにずらっと並ぶ町内の職人が手掛けた店舗の木彫看板は、木工家具のまちのシンボルのひとつ。



景観のよいまちを奨励

景観や環境に配慮した一定の基準を満たす東川風住宅を建築する方に、カーポート等の建築経費に対して補助する景観住宅建築支援事業があります。



居心地の良い椅子で学ぶ

幼児センターや小中学校の教室では、町内の職人が手掛けた木製椅子を使用。東川町の子どもたちは、木のぬくもりに触れられる環境で学んでいます。



薪ストーブで環境に配慮

地球の環境問題に配慮したやさしいまちづくりを推進することを目的に、クリーンエネルギーを積極的に活用した薪ストーブの設置費用を補助しています。

Voice まちの事業者が手掛けたお店

モダンな内装と家具が居心地よい
お惣菜とパンの店「SONOまんま」

2022年5月にオープンしたお惣菜とパンのお店「PINY'S KITCHEN SONOまんま」。モダンで落ち着いた雰囲気のお店の建築と内装は、町内の事業者「北の住まい設計社」が手掛けています。

「無垢の柔らかさや香りなど、これが本物なんだと感じる毎日です。いつかこういう空間で仕事がしたいと思っていたのが叶いました」と話すのはオーナーの芝園さん。

スペースの有効活用やオリジナルデザインの家具の製作、店先の外構



20種類以上のお惣菜と色どりよいお弁当は、主に無農薬・無添加の素材を使った優しい味。オーナーの芝さんは横浜から東川町へ移住。

PINY'S KITCHEN SONOまんま
東川町南町1-3-2 ☎0166-73-6076

旭川家具と共にあるまちの暮らし

東川町文化ギャラリー



東川町東町1-19-8 ☎ 0166-82-4700

ギャラリーに併設された、大きなソファとテーブル、椅子が置かれた広々としたラウンジスペースは、誰でも無料で使用することができます。「展示を見た後に休憩する親子連れや、仕事や勉強をしにいらっしゃる方も。飲食も可能ですよ」(吉里さん)。



写真の町課 学芸員
吉里演子さん



ギャラリーのオリジナルグッズが買えるショップのロビーでは、町内のお店で仕入れた豆のコーヒーを飲みながら、ゆっくり過ごせます。

大雪山国立公園 旭岳ビジターセンター



東川町旭岳温泉 ☎ 0166-97-2153

木のアーチ形の高い天井が印象的な旭岳ビジターセンターには、さまざまな事業者が手掛けた椅子とテーブルが設置された休憩スペースがあります。「大きな窓からは自然が眺められます。くつろぎながら季節の移り変わりも感じられますよ」(土井さん)。



旭岳ビジターセンター
土井啓子さん



ビジターセンターの職員が仕事をしている事務室のデスクには、コロナ対策にもなる、かわいい葉っぱのデザインの木製つたてが。

higashikawa style cafe Zen



東川町南町3-3-2 ☎ 0166-74-8820

東川町近郊の食材を使った体に優しいごはんが食べられるZenはいろんな職人の家具が体験できるカフェ（1階）とコワーキングスペース（2階）。「大きな窓からきれいなお庭も見えて気持ちよく仕事ができるので週1、2回は通っています」(遠又さん)。



東川町民
遠又香さん



電源が収納できる机や個別ボックスなど、アイデアが光る家具の数々。カフェで1ドリンク注文すれば、1日使用することが可能です。

東川町の職人が手掛けた旭川家具を町民や観光客が使える居心地のよい公共施設やコワーキングスペースを紹介。

せんとぴゅあⅠ



東川町北町1-1-1 ☎ 0166-74-6801

東川町立東川日本語学校が2階にあるせんとぴゅあⅠのラウンジは、外国人留学生のほか誰でも自由に利用できる語らいの場。写真の町ならではのカメラの展示スペースや、まちで推奨している薪ストーブもあり、旭川家具の数々を使用しながら東川らしい暮らし方が感じられます。

せんとぴゅあⅡ



東川町北町1-1-2 ☎ 0166-74-6801

東川暮らし体験館



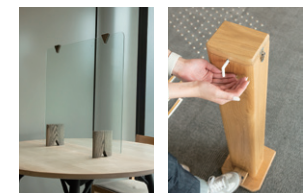
2号館：東川町西町3-8-13／3号館：東川町西町3-9-18

東川町での生活を体験できる宿泊施設「東川暮らし体験館」。ひがしかわ株主制度（ふるさと納税）の返礼品として利用が可能です。機能性を重視した2号館、デザイン性を重視した3号館があり、町内事業者が手掛けた家具やクラフトでコーディネート。使い心地を試せます。

朝9～21時まで開館しているせんとぴゅあⅡは、75,000冊の本が収蔵された図書スペースがあり、いたるところにある東川の家具を使って本を読んだり勉強することができます。「大きなテーブルで資料を拡げて勉強したり、ネットショッピングができる、居心地のいい場所です」(キムさん)。



元国際交流員
キム・ダユンさん



おしゃれな木製の台座が付いたアクリル板や木製の筒で目隠しした消毒液など、心地よく使うための時代に合った工夫が随所に。

その他

木工家具が購入できるお店や体験できる公共施設、宿泊施設など、他にもたくさん！



家具文化を共に伝えていく



“東川らしさ”に基づく木工家具文化の取り組みや、このまちに集まるほんものの家具、材料、デザイン、才能をより広く町内外に伝えていくために、さまざまな発信を行っています。東川町を応援してくれる「ひがしかわ株主制度」などを活用し、さまざまな人や企業と手を取り合いながら、家具文化を未来へつないでいく活動を推し進めます。



4月14日「椅子の日」の制定

新しいライフスタイルが模索されているいま、東川の家具を通じて未来の社会のあり方を考えるきっかけとなるように2021年「椅子の日」を制定。宣言の発表も。



織田コレクションの町有化

椅子研究家の織田憲嗣氏による世界的にも高く評価されている椅子やテーブルのコレクションを守り、まちで展示し、価値を広める活動を行っています。



株主が植樹に参加

ふるさと納税をすることで東川町の「株主」になれるひがしかわ株主制度。年に1度の株主総会では「株主の森」で植林活動に参加することができます。



『東川町 椅子』（コレクション1～6）

織田コレクションの椅子の紹介や、各界の著名人による椅子にまつわるエッセイや詩、「木工家具の町」である東川町の取り組みを紹介している書籍。

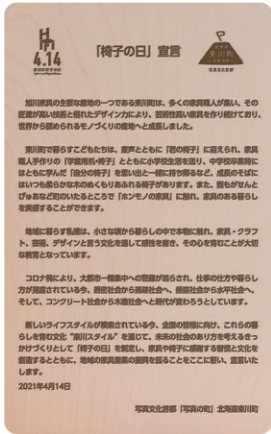
かまくら春秋社／編集：伊藤玄二郎

Column 「椅子の日」宣言

家具や椅子に感謝する習慣と文化
家具産業の振興を図るための宣言

ここでは東川町の「椅子の日」宣言を一部抜粋して紹介します。「旭川家具の主要な産地の一つである東川町は、多くの家具職人が集い、その匠達が高い技術と優れたデザイン力により、芸術性高い家具を作り続けており、世界から認められるモノづくりの産地へと成長しました。（中略）コロナ禍により、大都市一極集中への警鐘が鳴らされ、仕事の仕方や暮らし方が見直されている今、過密社会から適疎社会へ、垂直社会

から水平社会へ、そして、コンクリート社会から木造社会へと時代が変わろうとしています。新しいライフスタイルが模索されている今、全国の皆様に向け、これらの暮らしを育む文化“東川スタイル”を通じて、未来の社会のあり方を考えるきっかけづくりとして『椅子の日』を制定し、家具や椅子に感謝する習慣と文化を創造するとともに、地域の家具産業の振興を図ることをここに誓い、宣言いたします」



2021年の「椅子の日」には、「椅子の日」宣言や東川町と建築家・隈研吾氏の連携事業などが発表された。

北海道産の材料を積極的に使った デザイン性の高い家具づくり

旭川家具を発信する中心拠点である旭川デザインセンターでは、約30社の家具・クラフトメーカーのブースが常時展示販売され、半年に1度、企画展の開催をしています。旭川家具がどのように発展していったのか、施設を運営する旭川家具工業協同組合・専務理事の杉本啓維さんに伺いました。

「歴史は100年以上前にさかのぼります。明治中期、旭川に陸軍第七師団が設置され、本州から来た兵士の家を作るために大工や建具職人が集まったのが始まりと言われています。また旭川は米作りが盛んですが、仕事が夏の間だけに限られ、災害もあるため、通年仕事ができる環境をつくろうと行政も木工に力を入れるようになったと言います。最初は婚礼ダンスなどの“箱もの”からスタートでしたが、時代が移り変わりタンスメーカーの需要が縮小。将来を見据えて家具にデザインを取り入れようと考え、1990年に国際家具デザインコンペティション旭川（IFDA）を開催。3年に一度開催し、いまでは世界から注目されるコンペになりました。この30年間で世界から素晴らしい感性と頭脳が旭川に集まるようになり、IFDAに刺激を受けて本州から移り住む家具職人も。ダイニングやリビングなどライフスタイル全般で使われる家具づくりに取り組むようになり、デザイナーとコラボレーションを行うメーカーや、デザインマネジメント力のある経営者も育ちました。丈夫で良質な北海道産の広葉樹と、高度な技術。そして地域特性を活かしたデザイン。また個人の工房があれば、ブランド力を持った大きな会社もあり、多様な個性があるのも、この地域のものづくりの特徴だと思います」



旭川家具工業協同組合 専務理事
杉本啓維さん



旭川デザインセンターの1階に展示されている東川町の家具工場で生産しているモノクラフトのブース。



IFDAの歩みをたどる展示を開催（現在は終了）。海外からも審査員を迎え、世界のデザイナーの登竜門に成長。



旭川デザインセンター
旭川市永山2条10-1-35
☎0166-48-4135

世界を見渡してもどこにもない 条件の揃った産地です

長年にわたって活動が続けてきた椅子研究家の織田憲嗣さんは、旭川家具の特徴についてこう語ります。

「旭川は世界一、家具づくりのためのインフラストラクチャーが整った産地です。まず、タモ、ナラ、イタヤカエデなど良質な道産材の集積地という点があります。それから専門学校や大学など、家具やデザインについて学べる人材の育成研究機関がたくさんあります。また、旭川市と東神楽町、東川町の1市2町に160～180ともいわれる工房やメーカーが集まっており、東川町にもその1/3の拠点があります。小さなエリアにたくさんの職人が集まっているのも大きな柱のひとつ。さらに国際家具デザインコンペティション旭川（IFDA）や、東川町が始めた学生を対象としたKAGUデザインコンペなど、世界の感性をこの地域に集めようとしている試みも特徴のひとつと言えるでしょう」

それに加えてこの地域には、織田氏がコレクションしてきた世界のデザインミュージアムに匹敵するほどの、家具や日用品の貴重なコレクションや研究資料が豊富にあります。「デンマークやイタリアなど世界のどこを見渡しても、これらすべての条件がそろった家具の産地はありません」

東川町で注目している職人やメーカーを聞くと、パウ工房やTIME & STYLE、早見賢二さんなどの名前が上がりました。

「美しくて機能的で、そして安全性が担保された強度を保っていること。価格と物とのバランスが取れていること。そして欲をいうと、そこに作家性がちゃんと表れていること。それが私の思う良い家具の条件。それらはほとんどが、ロングライフなものです」



椅子研究家・
東海大学名誉教授
織田憲嗣さん



織田邸。貴重なものであっても、日常で使われないと意味がないと、織田さんの審美眼で選ばれた名作が生活空間に。



世界的家具デザイナー・ハンスウェグナーを広く紹介した功績が評価され第1回ハンスウェグナー賞を受賞。贈られたトロフィーチェア。

デザイン文化を未来へ育む



新しいライフスタイルに合った木工家具の提案には、
これからの未来をつくる若い力も欠かせません。
東川町では、木工家具や建築デザインを志す才能を見つけ出し、
応援する取り組みとしての、新しいコンペティションをスタート。
また、日々、新しい作品を生み出す家具メーカーや職人が集まる
マーケットや交流人口を生み出すサテライトオフィスなどから、
デザイン文化を一歩進めるイノベーションを起こしていきます。



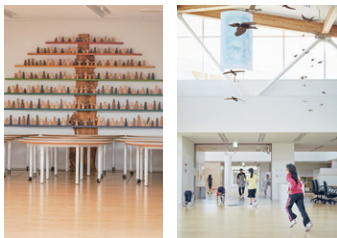
「隈研吾 & 東川町」KAGU デザインコンペ
30歳以下の学生による、新たな暮らしを育む家具の
デザインを世界から募集するコンペ。第3回は「外に
おける家具」をテーマに作品を募集しました。



未来をつくる「KAGUの家」
隈研吾建築都市設計事務所が設計した東川町サテライ
トオフィス。交流人口の拡大を図り、産業活性化や新
産業創出につなげることを目的としています。



家具メーカーや職人が勢ぞろい
年に1度、町内の木工家具事業者が集う展示会を「ク
リスマスマーケット」にて開催。美しく設えられた展
示や、楽しいワークショップなどが行われます。



東川小学校の木工作品群
東川小学校の中には、町内事業者が製作した、木工作
品が教室前廊下にズラリ。子どものころから美しいデ
ザインに触れ、感性を育んでいます。

Voice ————— KAGU デザインコンペ 第1回 最優秀賞受賞者インタビュー

第1回のテーマは「椅子」 応募は世界から1,800作品以上も

最優秀賞の隈研吾賞に選ばれたのは、大学の建築科で学ぶ杉原有香さん。もともと地面には凹凸があることから、傾斜のある床などいままで置くことが難しかった場所でも座れる椅子をデザインしました。「椅子などの家具は平らな床に置くように作られていますが、家具も建築も自由度の高いものにしていきたいという思いからアイデアが生まれました。また私は都会のベッドタウンのような場所に住んでいるので

すが、東川町は広々としていて緑も多い。建物の中という考えにも縛られずに、外に置く椅子を作ろうと考えたんです」
受賞後から町内家具事業者と共に、1年かけて商品開発を進め、現在はふるさと納税の返礼品として寄附の受付をしています。

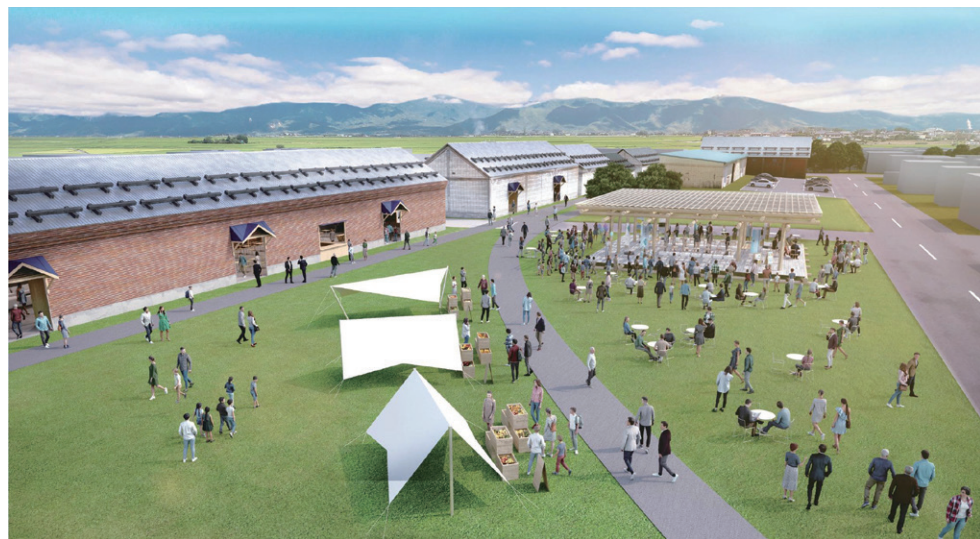


上) 最優秀賞に輝いた椅子「Grasp 大地をつかむ椅子」の試作品。
下) 最優秀賞を受賞した東京藝術大学建築科3年(取材当時)の杉原さん。



返礼品サイト

「KAGUデザイン文化」を世界へ発信する デザインミュージアム建築の実現を目指す



現在東川町では、「KAGUデザイン文化」を世界へ発信するデザインミュージアムの建設を目指しています。このミュージアムでは、この地域で作られる洗練された旭川家具や、世界的に歴史・芸術価値が高い「織田コレクション」を中核に、隈研吾氏の世界の建築設計やプロダクトデザイン、「隈研吾&東川町」KAGUデザインコンペの受賞作品などを展示し、地域や暮らしを豊かにするためのデザインを発信します。また本事業は、20世紀の優れたデザインを後世の人たちに残すための

世界的にも重要な取り組みでもあります。

多くの人が魅力的な地域へ遊動する時代において、東川町の「適度に疎がある」心地よい適疎空間、美しい自然と清らかな地下水のある生活、安全で豊かな農作物、美意識と機能性・デザイン性の高い旭川家具、世界的な織田コレクションをはじめとする文化は未来資源です。東川町は、隈研吾氏をはじめとする志ある多くの方々とともに、KAGUのある豊かな暮らしを育んでいきます。

Support 東川発デザインミュージアム建設事業

ひがしかわ株主制度

「ひがしかわ株主制度」は、東川町を応援しようとする方がまちへの投資（寄附）によって「株主」となり、まちづくりに参加する制度。このまちならではのプロジェクトの中から、投資したい事業を選ぶことができます。「東川発デザインミュージアム建設事業」もそのプロジェクトの中のひとつ。投資のお礼の品には、東川町の木工家具の商品も多数あります。



ひがしかわ株主制度
ふるさと納税
特設サイト



東川発デザイン
ミュージアム
建設事業

ひがしかわ株主制度で購入できる 家具・クラフト

毎日使う食卓の道具や大切な思い出の品、誰かへのプレゼント、一生使える上質な家具まで、さまざまな商品をお選びいただけます。



鈴木工房「お誕生を祝ったフォト
スタンド（お子さんの足形刻印付き）」
寄付額 28,000 円

Lサイズの写真が入るフォトスタンド。子どもの足型や手形などを名前と誕生日と一緒にレーザーで丁寧に刻印できます。



工房宮地
「クルミの器」
寄付額 33,000 円

中川町産クルミで家具を作っている時に出る端材を利用。仕上げにウレタン塗装をしているので水洗いができます。



北の住まい設計社
「PAS Stool_MA」
寄付額 120,000 円

ちょっと腰掛ける椅子としてや、花台やサイドテーブルとしても使えるフラットな板座のスツール。普遍的で美しいデザイン。



WOOD WORK「膳」（トレー、お箸、
箸置き、コースター）各2点ずつのセット
寄付額 74,000 円

北海道産のナラ材を使用。ナラ材は「実のなる木」として縁起物と言われ、結婚祝いなどギフト用としても人気です。



早見賢二
「モモンガ壁掛けロベロペー」
寄付額 59,000 円

東川町でも見ることができるモモンガの実物大の大きさで作った2段式ヤジロペー。さまざまに複雑な動きが楽しめます。



Leaf Style
「コースターケース」
寄付額 60,000 円

すべて異なった材種で作られた8枚のコースターの、それぞれの風合いや手触り、重さの違いを感じることができます。



むう工房
「キッズチェア〈ぞうさん〉」
寄付額 77,000 円

背もたれにかわいい「ぞうさん」をデザイン。指定のメッセージを刻んだ木製メッセージプレートが添えられます。



隈研吾氏デザインの椅子
「スケスケ（オブジェ）」
寄付額 2,000,000 円

隈研吾氏がデザインした椅子を、町内の木工事業者が製品化。今後、町のふるさと納税返礼品として登録予定です。



東川ミーツ
オンラインショップ

東川町の木工家具は、東川町の特産品を販売する「東川ミーツ」のオンラインショップで購入することもできます。

東川町に拠点を構える 家具・クラフト事業者

豊かな自然環境の中で日々、切磋琢磨して家具を製作する職人たち。
ショールームでは商品を手に取り、話を聞いて購入ができます。

 はショールームあり



アイスプロジェクト

「使い捨てない、長く愛す」をテーマに家具づくりをするメーカー。オリジナル家具やオーダーメイド家具を製作。

東川町東8号北1-2-3
☎ 0166-49-7736



アール工房

「東川町のおもしろ家具工房」として、毎日の生活が楽しくなる“遊び心満載”なオーダーメイド家具を製作。

アール工房：東川町東3号北21
☎ 0166-82-5338
アール工房mini：東川町北町3-1-6
☎ 090-8272-1653





EZO

民芸調家具を製作・販売。創業1986年の「えぞ民芸家具製作所」から知識と技術を受け継ぎ、家具作りを続ける。

東川町南町2-12-1
☎ 0166-85-6020





風工房

1894年に新十津川町で設立し、2001年に東川町に移転した、動物のキーホルダー等を扱う木工雑貨の工房。

東川町西6号北36
FAX：0166-82-5866



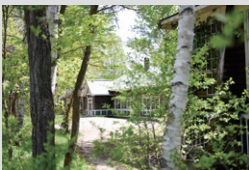


加藤木工

企画・デザインから塗装まで、自社工場で行う。四季の変化を楽しみ暮らしのツールも提案し、カフェや食品館も運営。

東川町北町12-2-1
☎ 0166-82-6666





北の住まい設計社

廃校を作業場に、道産無垢材の家具作りを行う。四季の変化を楽しみ暮らしのツールも提案し、カフェや食品館も運営。

東川町東7号北7
☎ 0166-82-4556





木と暮らしの工房

代表の鳥羽山聡さんは「白樺プロジェクト」の代表理事も務める。無理なく、直して使い続けられる商品を目指す。

東川町西11号北29
☎ 0166-73-9202



樹の郷 AKO

「本物」志向の小さな工房。白樺を中心に数種の自然色を活かしたデザイン性のある家具を、リーズナブルな価格で提供。

東川町東3号北22
☎ 0166-82-0888



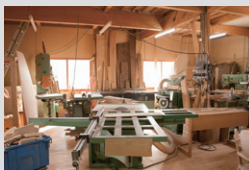


工房宮地

「背当たりこそが椅子の座り心地の決め手」と、背当たりにこだわった椅子や、使い心地の良い家具作りを目指している。

東川町西2号北10
☎ 0166-82-2167





こだま
木魂

木工職人であり、デザイナーでもある服部勇二さんが営む工房。大手に長年勤務した経験と技術は町内でも折り紙付き。

東川町西6号北32
☎ 090-6691-3085

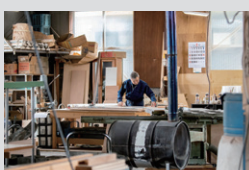


さいとうデザイン工房

無垢材から合板まで幅広く手がけ、経験と知識をプラスして世界にひとつしかないこだわりの一点ものの家具を製作。

東川町北町9-1-22
☎ 0166-82-7060

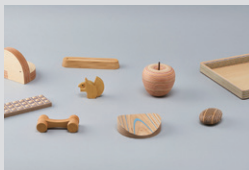




創彩工房

「彩りを創造する工房」というのが工房名の由来。東京の千駄木にもオリジナルデザインの家具・クラフト直販店がある。

東川町北町8-9-22
☎ 0166-74-4672



滝澤ベニヤ／
PLYWOOD Laboratory

老舗合板メーカー滝澤ベニヤによる合板プロダクトのファクトリーブランド。独自開発の材料と技術で注目を集める。

東川町北町9-2-9
☎ 0166-82-2271

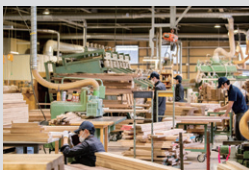


コタン・クル・カムイ

高速で回転させた木材に、刃物をあてて削り作品をつくる「木工旋盤」の技術を駆使し、愛らしい動物を製作している。

東川町東町3-1-18
☎ 0166-82-4304





昭和木材／
無垢板工房“和（なごみ）”

優良な国産原木を集め、製材・乾燥・加工した製品を販売。無垢板工房“和（なごみ）”では無垢板で家具等の製作も。

東川町西町10-1-3
☎ 0166-82-7477





WOOD WORK

オーダー家具を中心に、オリジナル家具も多数販売する家具メーカー。機能と意匠を兼ねた無駄のないデザインが特徴。

東川町北町7-11-16
☎ 0166-82-3920





鈴木工房

エゾモモンガなど大雪山に生息する動物をモチーフにしたペーパーウェイトや木工クラフトなど身近で楽しい製品を製作。

東川町東2号北7
☎ 0166-82-4025





大雪木工

1983年開業。旭川家具メーカーの中でも屈指の大きさを持つ家具工場で北海道産材を積極的に使った家具を製作している。

東川町北町4-13-2
☎ 0166-82-2900





TIME & STYLE

日本で唯一道産材の丸太を自社で仕入れ、製材・乾燥まで取り組む。東京ミッドタウンほか海外にもショールームがある。

東川町北町4-13-2
☎ 03-5464-3208





樹工房

特注・オーダー家具を中心に扱う家具製造会社。オーダーに細かく対応し、イメージに沿った形で家具の提案を行う。

東川町南町2-11-3
☎ 0166-82-7770





T.MOTOI

基恒良（もといつねよし）さんがデザインした家具、人形、オブジェなど、シャープで繊細でありながら温かみを感じる製品を自ら製作している。

東川町東4号北6
☎ 0166-82-2027





写真文化首都「写真の町」東川町

〒071-1492 北海道上川郡東川町東町1-16-1 TEL：0166-82-2111 FAX：0166-82-3644

発行：東川町経済振興課 発行日：2022年11月2日 更新日：2024年2月29日

制作：株式会社シー・エム・エス デザイン：新藤岳史